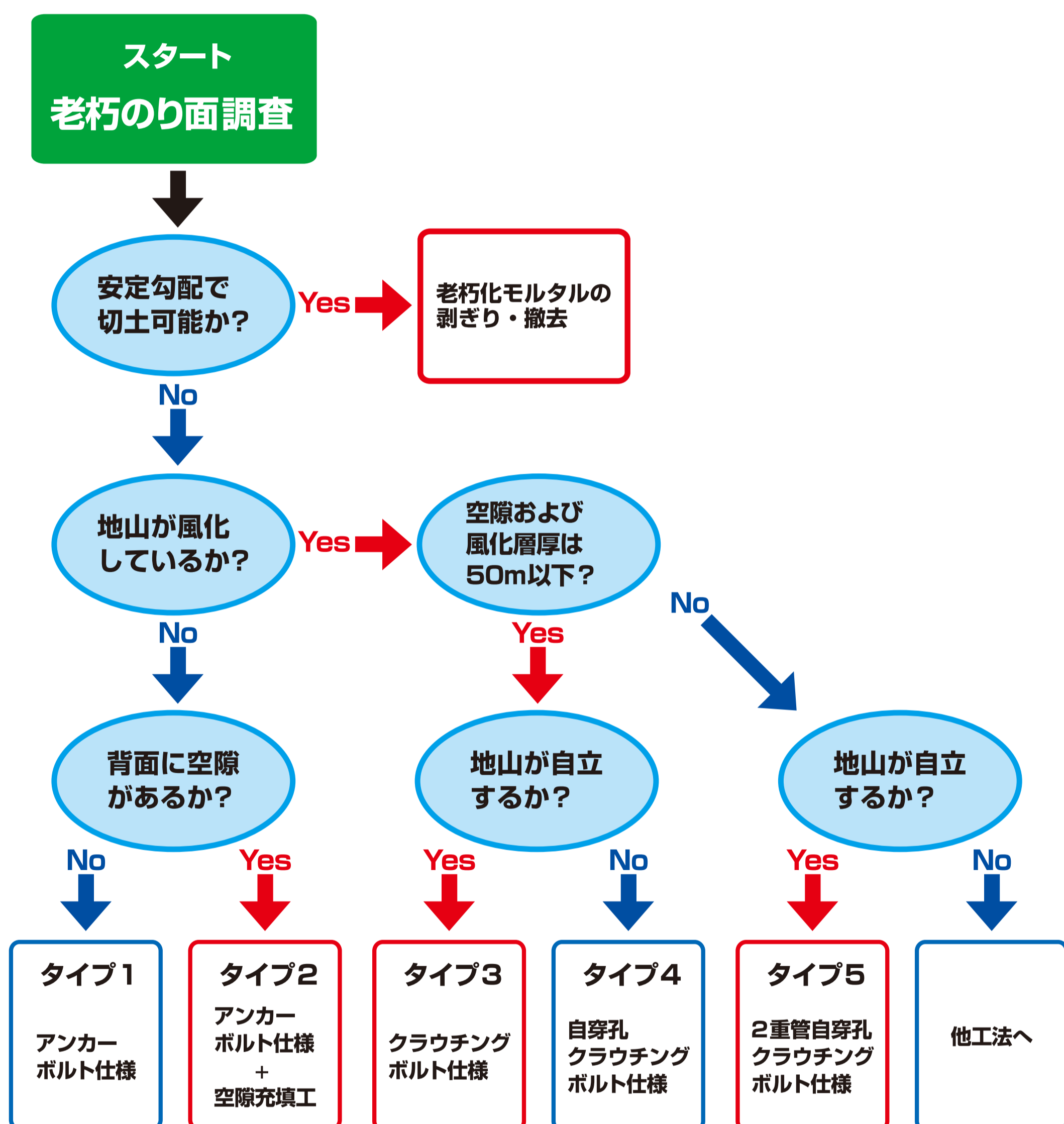


のりフレッシュ工法

のり面を保護する方法として、モルタル吹付工が多く用いられてきました。その表面が長年の風雨にさらされることによって傷んでひび割れたり、はがれ落ちたりしています。これまでは、劣化したモルタルを取り除き、新しく作り替えていました。のりフレッシュ工法は、古くなったモルタルを取り壊す(捨てる)ことなく、のり面の補修や補強ができます。本工法は、以下の3工種の効果によってのり面を安定させます。

選定フロー



古くなったモルタル吹付け面の補強や景観の向上を目的とした【増厚工】

(イメージ：のり面をお化粧し直します。)

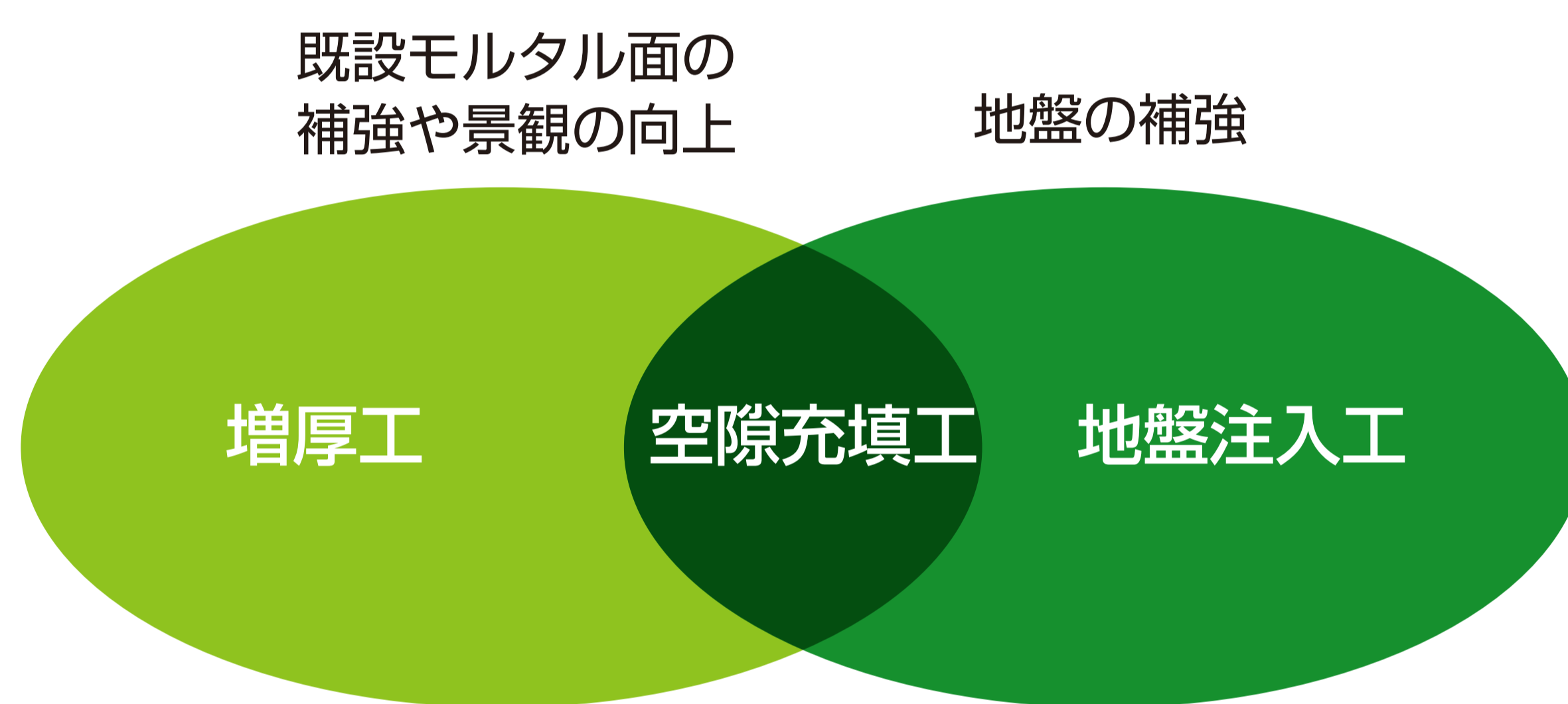
地盤とモルタル吹付け背面の密着性を高めることを目的とした【空隙充填工】

(イメージ：地盤と古くなったモルタル吹付との隙間を埋めます。)

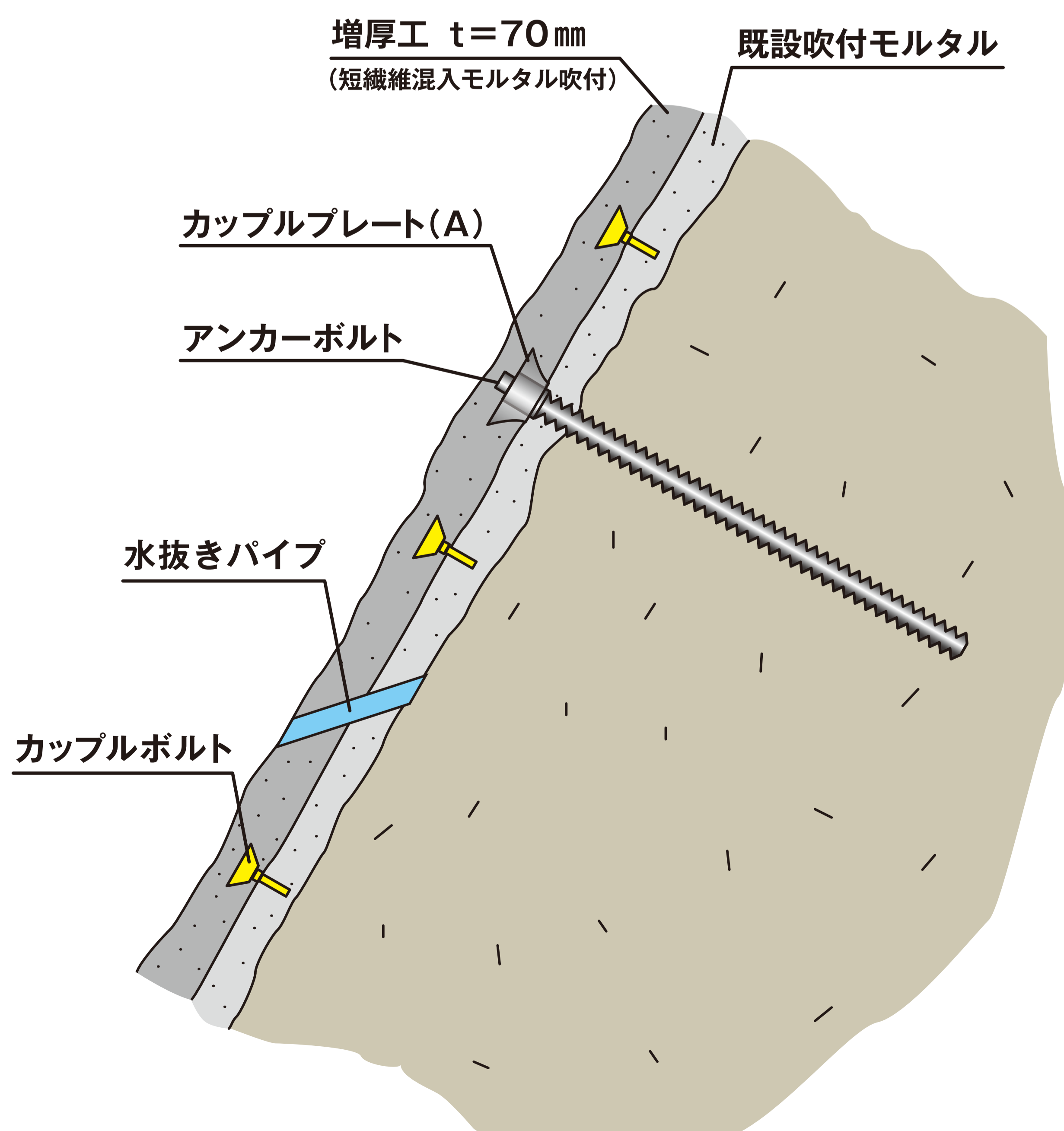
地盤の強化を目的とした【地盤注入工】

(イメージ：弱くなった地盤を固くなる薬で強化します。)

工法イメージ図



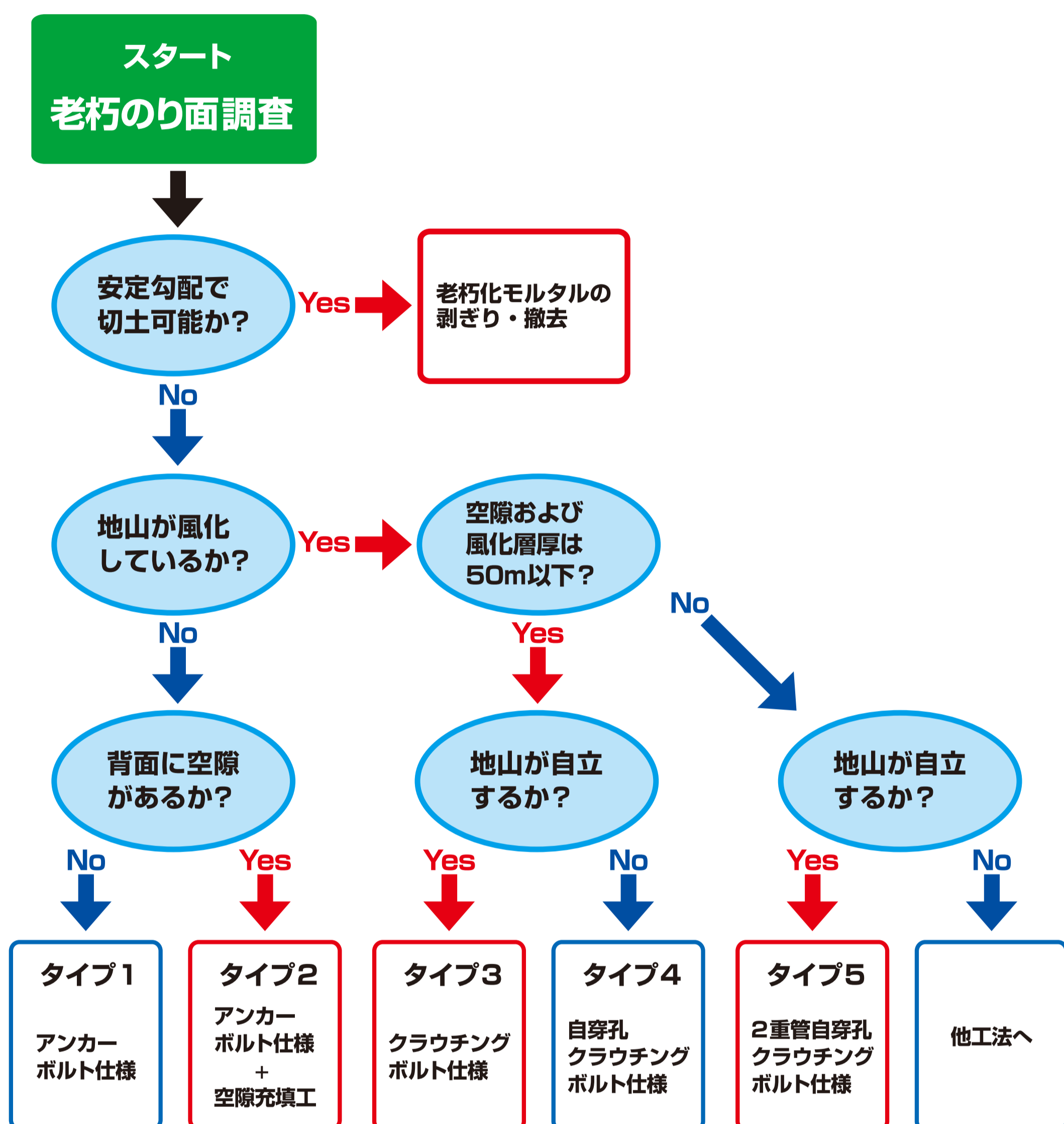
増厚工と既設モルタル吹付けを一体化することを目的としたカップルボルトを斜面に配置し、繊維混入モルタルで増厚することで、老朽化したモルタル吹付け面を強化補修します。



のリフレッシュ工法

のり面を保護する方法として、モルタル吹付工が多く用いられてきました。その表面が長年の風雨にさらされることによって傷んでひび割れたり、はがれ落ちたりしています。これまでは、劣化したモルタルを取り除き、新しく作り替えていました。のリフレッシュ工法は、古くなったモルタルを取り壊す(捨てる)ことなく、のり面の補修や補強ができます。本工法は、以下の3工種の効果によってのり面を安定させます。

選定フロー



古くなったモルタル吹付け面の補強や景観の向上を目的とした【増厚工】

(イメージ：のり面をお化粧し直します。)

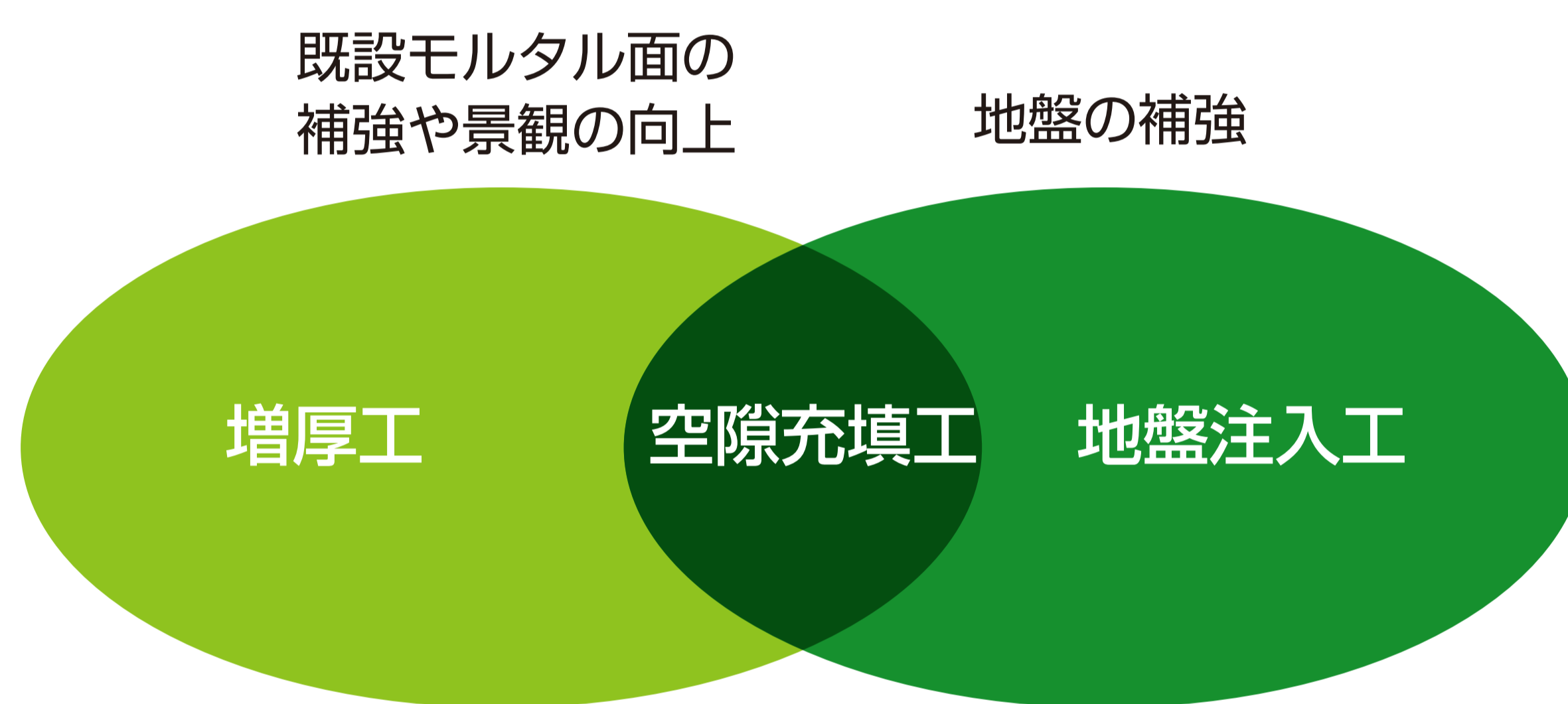
地盤とモルタル吹付け背面の密着性を高めることを目的とした【空隙充填工】

(イメージ：地盤と古くなったモルタル吹付との隙間を埋めます。)

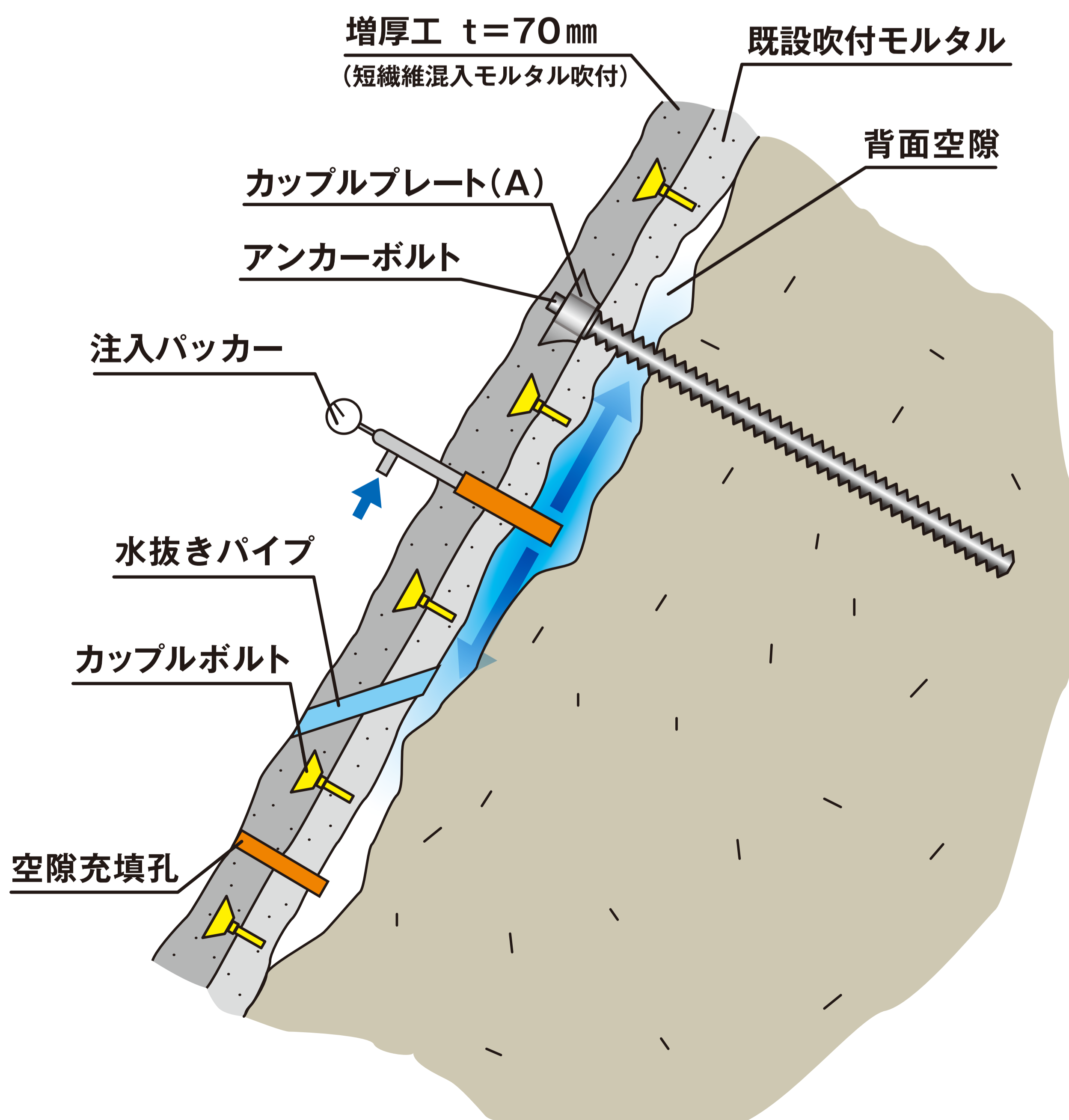
地盤の強化を目的とした【地盤注入工】

(イメージ：弱くなった地盤を固くなる薬で強化します。)

工法イメージ図



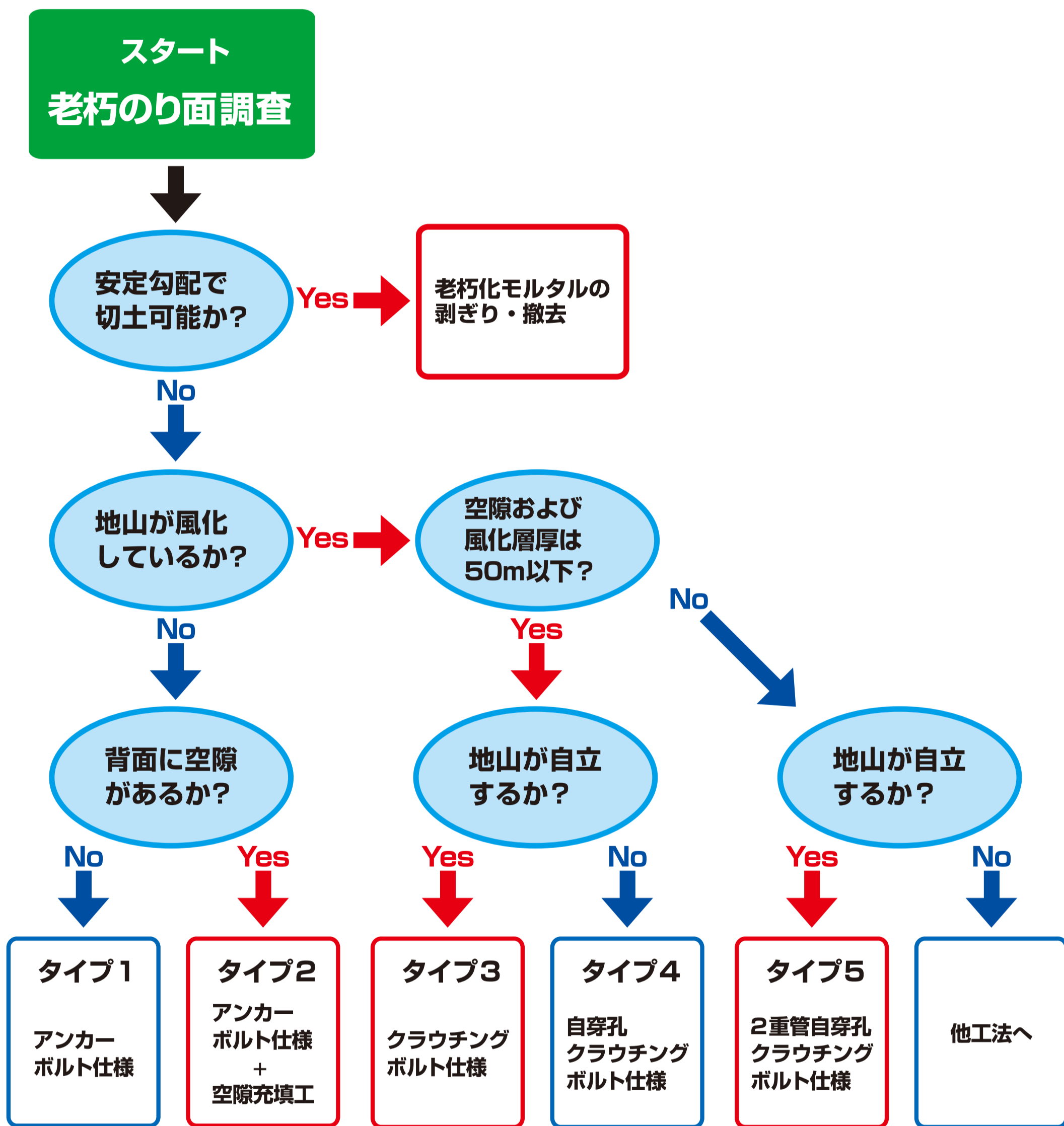
増厚工と既設モルタル吹付けを一体化することを目的としたカップルボルトを斜面に配置し、繊維混入モルタルで増厚することで、老朽化したモルタル吹付け面を強化補修します。背面空隙にはセメント系固化剤を充填し、既設モルタルと背面地盤の密着性を回復させます。



のりフレッシュ工法

のり面を保護する方法として、モルタル吹付工が多く用いられてきました。その表面が長年の風雨にさらされることによって傷んでひび割れたり、はがれ落ちたりしています。これまでは、劣化したモルタルを取り除き、新しく作り替えていました。のりフレッシュ工法は、古くなったモルタルを取り壊す(捨てる)ことなく、のり面の補修や補強ができます。本工法は、以下の3工種の効果によってのり面を安定させます。

選定フロー

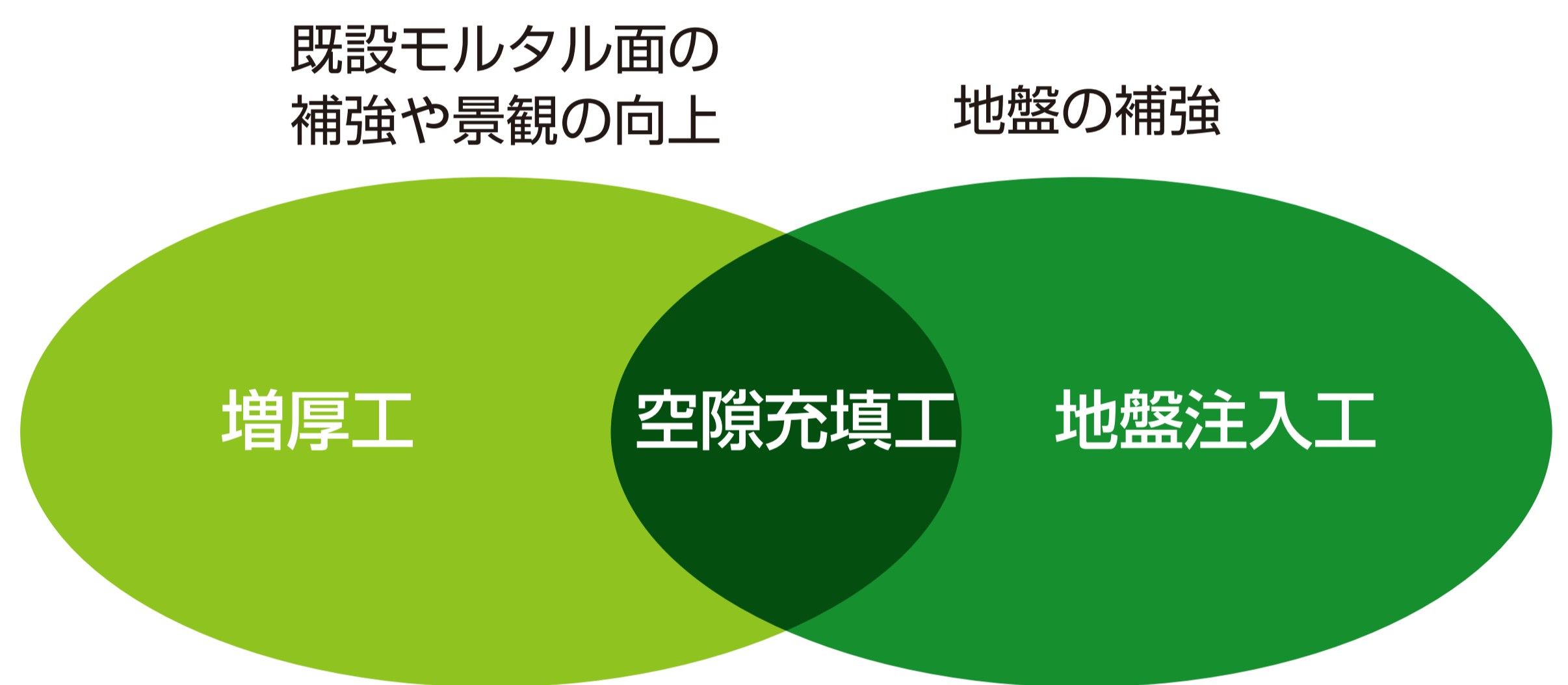


古くなったモルタル吹付け面の補強や景観の向上を目的とした【増厚工】
(イメージ：のり面をお化粧し直します。)

地盤とモルタル吹付け背面の密着性を高めることを目的とした【空隙充填工】
(イメージ：地盤と古くなったモルタル吹付との隙間を埋めます。)

地盤の強化を目的とした【地盤注入工】
(イメージ：弱くなった地盤を固くなる薬で強化します。)

工法イメージ図



老朽化したモルタル吹付けのり面を、新たに補修(増厚工)して機能の回復を図ります。背面の脆弱化した地山については、補強材と注入管の機能を兼ねる『クラウチングボルト』を設置し、セメント系グラウトを実施することにより地盤を強化します。

